

親しい友人に話しをしたりすることもあるのですが、星野富弘さんの絵と詩が私の大のお気に入りです。少し時間があると 群馬にある富弘美術館に出掛けてしまうくらいに。

星野富弘さん、
彼は中学校の体育教師になりたての頃、すぐに、クラブ活動中に頸椎を傷めてしまい首から上しか動かない、車いす生活を送ることになります。

しかしそのような逆境の中にあっても、星野さんは口で筆をくわえ、絵を描き、詩をうたうようになりました。その絵と詩は とても可愛らしく、愛情にあふれています。

時には悲しい心の嘆きをうたっているものもありますが、全てに、周りの人々への愛、自然への感謝、大いなる喜びを歌った作品が並んでいます

©星野富弘 詩集より

よろこびが集ったよりも 悲しみが集った方が
しあわせにちかいような気がする

強いものが集ったよりも 弱いものが集った方が
真実に近いような気がする

しあわせが集ったよりも ふしあわせが集った方が
愛に近いような気がする



今日も一つ 悲しいことがあった
今日もまた一つ うれしいことがあった

笑ったり泣いたり のぞんだりあきらめたり
にくんだり 愛したり・・・

そして これらの一つ一つを柔らかく包んでくれた
数え切れないほど沢山の 平凡なことがあった



神様がたった一度だけ この腕を動かして下さるとしたら
母の肩をたたかせてもらおう

風に揺れるぺんぺん草の実をみていたら
そんな日が本当に 来るような気がした



以前、署名な先生の講演を聴いていて、どのような分野であれ、道を究める方というのは「感謝の念が強い人である」と、いう話を聞いたことがあります。

『自分にプラスになるから 感謝するものではありません。
自分にとってマイナスとみえる出来事にも、これは 自分を成長させるために
天があたえたものだ」と感謝の念を持つことが大切です。』

私も星野富弘さんのような 愛と感謝の気持ちを 常に持ち続けたいものです。